

# グロースアップ



## 新園舎に響く元気な声

宮城幼稚園がリニューアル。1月21日に開園式が行われました。30年以上使われた園舎は一新され、遊具も安全面に配慮した新しい物に。冬の寒さを吹き飛ばすくらい元気いっぱい遊ぶ園児たちの声が、園全体に響きわたります。

1月27日、まえばし幼稚園で本市産イチゴの試食会を開催。これは幼稚園給食に本市産イチゴを安定的に供給できるようになったために行ったもの。園児は生産者や栄養士の話聞いた後、新鮮なイチゴをおいしそうにほお張りしました。



## おいしいイチゴを試食



## 市民自慢の力作がそろそろ

2月5日から13日まで、グリーンドーム前橋で市民展覧会が開催されました。美術・写真・書道の3部門で、市民の力作1,315点を展示。来場者は、ずらりと並んだレベルの高い作品に見入っていました。

## 芸術を愛した朔太郎の世界

前橋プラザ元氣21で1月29日、「萩原朔太郎と能」を開催しました。萩原朔太郎をテーマに講演が行われた後、マンドリン演奏と能を披露。訪れた人たちは西洋と東洋の芸術に酔いしれていました。



外務省と日本国際連合協会が主催する国際理解・国際協力のための全国中学生の作文コンテストで、4,340人の応募の中から最高賞の外務大臣賞を受賞した。

「結果を聞いたときはびっくりしました。今回のコンテストが50回目の節目ということもあり、とてもうれしいです」

テーマは、貧困をなくすために国連に期待すること。授業や新聞、テレビなどで世界の貧困問題について触れ、今まで想像もしなかった実態に衝撃を受けたのが応募のきっかけ。約3カ月かけて世界の貧困問題や国連の役割について徹底的に調べ、教育の重要性を強く感じた。

「わたしがもし教育を受けられない環境に育ったらと思うと、生きて

いけるか不安になり、今までの人生が奇跡に思えました。貧困から抜け出すには教育環境の整備が必要だと思います。わたしが国連職員だったらそんな活動がしたいですね」

現在、群馬大附属中の3年で、1日の大半は勉強に励む。生徒会副会長を務めたほかに、合唱部にも所属し、関東合唱コンクールで金賞を獲得するなど、多才ぶりを発揮した。

「受験が終わったら、世界の状況についてもっと調べてみたいです。3月にはアメリカ・ニューヨークの国連本部の視察研修があり、実際の活動が見られるので楽しみです」

将来は法律の分野で国際社会に貢献できる道に進みたいと話す吉川さん。今後も広い視野を持って、世界で活躍することを期待したい。

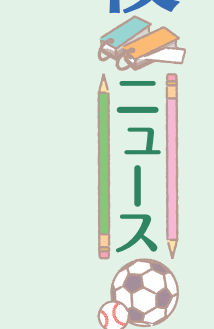
# いきいき まえばし人



国際理解・国際協力のための全国中学生の作文コンテストで最高賞

吉川 綾乃さん・15歳  
大友町一丁目

## わたしたちの学校 ニュース



養護学校

中学部



上手に道具を使っています

養護学校では、中学生になると作業学習が始まります。障害のある生徒たちの自立的な生活や社会参加に直結する、とても重要な学習です。生徒たちは、エコ班、ホチキス班、木工班、陶芸班、手芸班に分かれ、作業を行っています。作業学習の狙いは2つあり、1つ目は、働くことに関心を持ち、働く喜びを味わうことを通して、作業への意欲を持てるようにすること。2つ目は、働くのに必要な基礎知識や技能、実践的な態度を身に付けられるようにすることです。

生徒にとって、「働くって楽し



たくさんの皿を製作

い、おもしろい、もっとやってみよう」と思えることが一番大切です。

この気持ちが高めながら、働く力を身に付けていきます。本校では働くことによる楽しさを感じられるよう、毎学期の校内作業実習週間が終わり、ご苦労様会として茶話会や昼食会を開催。生徒はこの日を心待ちにしながら日々の作業を頑張っています。

また、生徒は毎年2月に行われる市内特別支援学級・養護学校児童生徒作品展での製品販売に向けて、1年間こつこつと製品作りに取り組んでいます。ことは2月3日から6日に開催されました。これから来年の作品展に向けて、一人一人が持つ力を発揮し、心の込められた製品を仕上げていきます。